

「方法」と「新・方法」講義立会記

匿名希望

今回は美術家・中ザワヒデキが行った「方法」と「新・方法」についての講義について、これまでの中ザワの講義内容を振り返りながら記していきたいと思う。

まず、「方法」と「新・方法」の活動の概略であるが、「方法」の活動は2000年1月1日から2004年12月31日までの5年間であり、メンバーは最初の2年間で美術家・中ザワヒデキ、詩人・松井茂、音楽家・足立智美、次の3年間で中ザワ、松井、作曲家・三輪眞弘であった。続く「新・方法」は2010年9月4日から平間貴大、馬場省吾、中ザワヒデキの3人のメンバーで指導し、1年毎に宣言を出しつつ2012年2月18日に中ザワヒデキが脱退し、皆藤将が新たに参加した。

次に中ザワの授業風景についてであるが、中ザワの口頭説明とともにプロジェクターを使用し実際に作品を我々立会人に公開したり、音声や映像を流すスタイルである。私は美術的な専門知識があるわけではないので、口頭だけの講義ではなかなか作品のイメージも掴みづらいと懸念していたが、実際に作品や活動の記録を講義内で見ることができることにより、思っていたよりも「方法」と「新・方法」を身近に感じられるようになった。また(元)方法主義者である足立智美、松井茂を招いたゲスト講義なども行われた。

そして、「方法」と「新・方法」の作品についてである。どちらも同語反復によるスタイルを基本としており、「方法」は「方法」であり「新・方法」は「新・方法」それ以外の何物でもないということが両宣言でも明示されている。しかし、しばしば戯曲を用い実際には行っていない対談をさも行ったように見せるという手段は「方法」と「新・方法」どちらにも共通している。また、この戯曲というのは最初から戯曲として発表されたものではなく、実は戯曲であったということの中ザワが講義中にぼつりと話していた。一番初めにそのような裏話を聞いたとき、面白いとは思ったが個人的にそれは話してしまってもいいことなのだろうかとも思った。そして、私個人の意見では「新・方法」のメールで配信される作品がお気に入りである。中でも一番好きなのは、一週間にわたりその日の曜日がメールにて通知される作品である。メールには画像の添付もなくテキストのみのシンプルな作品だが、受け取り手はこのような内容のメールがいつまで続くのかはわからないので、それぞれこの作品をどのように受け止めるかによりこの作品はそれぞれ異なったものに変化すると思うのが私がこの作品を好む理由である。

全体を通し、「方法」も「新・方法」も今まで私が全く接したことがないジャンル、というか美術経験であったが自分なりに好きな作品を発見できたり、その理念を理解することができたのでとても良い体験をしたと思っている。

以上により、「方法」と「新・方法」講義立会記を終了する。